

新しい家録 No. 4
夫婦で子育て

東京都立大学教授・心理学

託摩 武俊

走る、投げる、遊ぶ、泳ぐといふような動作を基本とするスポーツは、生活の余裕と心のゆとりがなければ始められません。生きることが精いっぱい生活であつたり、多忙であつたりした場合にはスポーツをする気にはなりません。

スポーツに親しみを

最近の若い人の特徴のひとつはスポーツに親しみをもち人が多くなったということにあります。ひとつのスポーツに夢中になるといふよりはいろいろなスポーツをします。スキーもすればサーフィンもする、テニスもすれば登山もする、という青年が増えていきます。ドライブ、釣りなどもスポーツに含まれるかもしれせん。現在、五十歳以上の世代の人と比較すると大変な違いです。体力があり、時間とお金のゆとりのある若物が羨ましいという初老の人



をするということも自ら戸外に出て体を動かす機会をつくるようにするのがいいです。気の弱い子どもは怖がることとありますが、親と一緒にやることで不安は軽減されます。スポーツには我慢することが必要とされます。苦しくてもがんばることです。ルールを守ることも要求されます。力いっぱい努力して負けたときはさっぱり負けることも大切です。ほとんどのスポーツは仲間が必要で、チームをつくらなければならない。一緒にスポーツをした仲間には強い連帯感と豊富な話題があります。スポーツの好きな青年はたいてい子どもの時からスポーツに親しんでいます。そして家庭の中にスポーツを好ましく思う空気があるのです。

広い道路に感動、今ではあの広さはどこへ

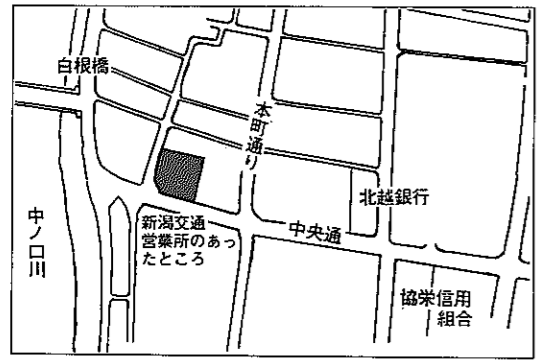
語る人
古川百合子さん
(飯島新田・34歳)



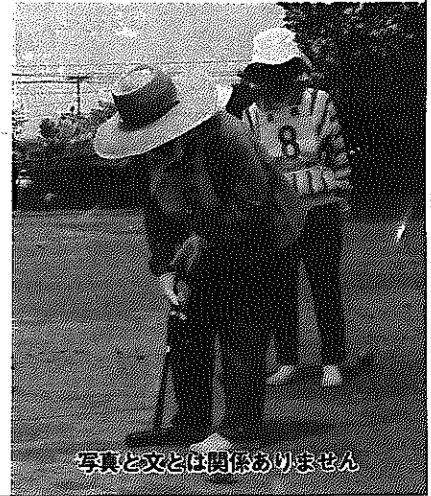
横町から中ノ口川の堤防に向かっていると坂があり、道がカーブしているあたりに、新潟交通の営業所があつたところ。今から十六、七年前、私が高校生のころでした。友だちとバスで市街に買い物に来て、初めて街並みを歩いたとき、その道を見て、「なんて広い道路なんだろう」と思ったものです。加茂の町の狭い道路しか見たこと

私の思い出
昔のわが街

のなかつた私にとって、そのときの感動は忘れられないものでした。もともとあのころは、車の台数も少なかつたこともあり、今ほど路上駐車があつたせいであつたのかと不思議です。私自身、やっぱり店先に車を止めて買い物をしてしまいました。両側に車だから道路は狭くなるわけです。ほんとは広い道路なんですよ。あまり変わっていないいたすまいが懐しく、そんな街が好きなんです。



日赤 家庭看護法
No. 1
おまも
老いを看護る



写真と文とは関係ありません

人生八十年の高齢者社会を迎え、新潟県はいまや全国平均の十年先を行く状況下にあります。長寿を楽しむ人がいる一方、寝たきりやボケになる人もいます。入院している人でも病気のめどがつかずと種々の障害を受ける例も多く、病人もたいへんですが、それを支える家族の苦勞には計り知れないものがあります。

赤十字では、人々の健康と生命を守るという願いから各種の事業を行っています。この家庭看護法もその一つとして行っているものです。人生の仕上げの時期が誰にとっても幸せで実り多いものであることを願ひ、これから「老いを看護る」をテーマに十回にわたり連載していきます。

差が大きく年齢だけで決めることは出来ません。大抵の人は七十歳を過ぎないと老いを自覚しないそうです。自分はそう思っていないのに見知らぬ人から老人扱いされれば、誰もが腹立たしく思うことでしょう。しかし、身近な人から「年寄りだから」と言われ、扱われ続けたりすると自分でもそう思い込んでしまつて、消極的な生活を送つてしまつてしまいます。自分で年をとつたと思つている人は、そうでない人に比べて生活態度が受け身になり、将来に対して夢も希望も持たず、ただ生きていくだけという人が多くなりがちと、指摘する人もいます。周囲の人は、お年寄りの心が明るく積極的になるような気持ちの良い方法で対応したいものです。

日本赤十字社新潟県支部
佐々木 成子

しろねの農産物

①葉ねぎ



葉ねぎは、以前から栽培されていたトッパネギ、ヤマザキネギなどを総称したもので、普通のネギとは違い外見は白い部分が多く、緑(葉)の部分が多いのが特徴です。食べると柔らかく、風味があり、薬味として使うほか「ぬた」「なべ物」などの料理に適しています。本市では、根岸地区を中心に栽培されていますが、個人での生産・出荷となっていました。共同出荷(販売)が開始されたのは昭和六十年からで、生産者八人でスタートし、名称を「葉ねぎ」に統一。今では生産者は

三十人に加え、上塩俵、山崎興野を中心に栽培されています。県外市場からは、「白根産は色あいが最高で、ネギ独特の風味を持ち良質である」と高く評価されています。まだ出荷量が少なく、もつと多く出荷してほしいとのこと。

白根市農協根岸産部会(組合員四十九人)では、転作の重点作物として栽培を奨励し、共同出荷して有利販売を目指そうと、生産者の拡大に力を入れています。共同出荷を希望する人には、葉ねぎの株分けをしています。

生産者の声



上杉裕子さん
(上塩俵・52歳)

転作も含めて六十アールくらい栽培し、四月から十月まで毎月出荷しています。すべて手作業なので、若い人にはちょっと敬遠されるでしょう。栽培仲間を増やして、もっと大きな産地になりたいですね。